

小学3年生

さあいこう（最高）動画祭り

大まかな単元の流れ

話し合い

P

動画撮影

PDCA D

動画鑑賞会

D

ふりかえり
次への思いを
もつ

CA

クラスの児童について

元気で、素直な子たちである。一方で、他者意識が低く、自己中心的な言動が見られる。

手立てのポイント①

【主体的にPDCAを回すための手立て】

子どもの普段の様子をきっかけにする

子どもたちが学習用端末（Chromebook）を使っている中で、休み時間に動画や写真を撮っている子に着目していた。子どもが得意なことを動画や写真に撮り、共有することで互いの良さを感じたり、自分の良さに気づくことができたりすると考えたからである。

その後、何人かに声をかけ、教師に送ってもらい、クラスみんなで鑑賞した。ダンスを踊っている動画や紙飛行機を飛ばしている動画などがあり、見た子は「自分もやってみたい」という気持ちになったようで、改めて自分の得意なことを紹介する動画鑑賞会を開くことになった。

子どもたちの中にあった遊びや思いをきっかけとし、学級活動の題材にすることで、主体的に取り組める活動にしていった。



手立てのポイント②

【主体的に問題を解決するための手立て】

成功のための話し合いをする

子どもたちは、動画鑑賞会を成功させたいと思っていたため、そのための話し合いを行った。まず「良い」動画の基準をはっきりさせた。「長くても2分まで」「嫌な気持ちになる人がいない」「全員が出る」といった基準が出され、情報モラルの指導も兼ねることができた。

鑑賞会の名前は「さあいこう（最高）動画祭り」に決まり、自分の得意なことや紹介したいことで、学習・運動・工作・絵の大きく4つのジャンルに分かれて、お互いに動画を撮りあうことになった。総合的な学習の時間と関連させ、動画撮影の時間数を確保した。

手立てのポイント③

【自己肯定感を高め認め合うための手立て】

「良かった動画しょうかい」の設定

動画祭りの終わりに、感想交流をする時間を設けて、印象に残った動画を発表し合った。子どもたちの手が次々と挙がっていき、全ての動画について良かったことが発表された。温かい雰囲気では終わり、「またやりたい」「もっとすごいものが撮りたい」など次につながる意見がたくさん出された。



実践を通して見られた児童の様子

みんなの良いところを集めるというゴールに向かって、子どもたち同士が互いに関心をもって取り組んでいた。アドバイスや協力し合う様子もいろいろなところで見られた。全体を通して、お互いを認め合う雰囲気ができた。

実践詳細
の二次元
コード

